

丹波の恐竜化石発掘～6年間の軌跡～

2006年8月、丹波市在住の足立冽さんと村上茂さんのお二人が篠山層群の広がる丹波市山南町篠山川河床で世紀の大発見をしました。恐竜化石の発見です。この発見を機にこれまでひととはくは、多くのボランティアの方々の協力のもと6次にわたる大規模な発掘調査を行ってきました。主に発見されている化石は竜脚類と呼ばれる大型の恐竜化石ですが、他にも鳥脚類、獣脚類、ティラノサウルス類、そして鱗竜類の歯が発見されており、多様な恐竜類が産出しています。また、恐竜化石以外にも多くの小型脊椎動物化石が発見されており、中でもカエル類化石は多数確認されており、全身がほぼ完全に保存されたものも発見されています。そして、この丹波の恐竜化石の発見を契機に、篠山市に広がる篠山層群からは多くの恐竜類を含む脊椎動物化石が産出しています。篠山市宮田では角竜類の頭骨の部分骨格、原始的な哺乳類の下顎、また多数のトカゲ類化石が発見されています。昨年には、県立丹波並木道中央公園（篠山市西古佐）からデイノニコサウルス類や角竜類の関節した体骨格化石が産出しており、今後の調査によって新たな化石が発見されることが期待されています。

今回の展示特別企画では丹波の恐竜化石発掘～6年間の軌跡～と称し、各年の大規模発掘の成果を順に紹介し、未公開資料も含めて多くの化石を展示しています。また、丹波の発掘調査以外にも他の地域から発見されている恐竜化石や小型脊椎動物化石も合わせて展示しています。篠山層群の脊椎動物化石が一堂に会しています。どうぞみなさんひととはくにお越しください。

池田忠広（恐竜タスクフォース）



肋骨化石を含む岩塊（2次発掘）



6次発掘の現場



1次発掘で採集された竜脚類の歯骨の部分化石

ひととはくの新しい仲間—キッズひととはく大使

ひととはくは全ての世代の人々の学びの気持ちを受け止め、共に考えることのできる博物館として、活動を展開しています。その活動の一つとして、小さな子どもの頃から親しんでもらえる博物館にしたいと考えています。そこで、より多くの方に「ひととはくが幼児から楽しめる施設であること」を知ってもらおうと、ひととはく20周年を迎える本年、ひととはくで様々なプログラムに参加し、ひととはくの魅力をPRしてくれる仲間「キッズひととはく大使」を創設することになりました。

「キッズひととはく大使」は、2歳～小学3年生の子どもたちを対象として公募し、4月に145名の大使が誕生しました。大使の任期は1年間。子ども向けのイベントやセミナーに関わることで、子ども向けプログラムの開発や改良のためのモニターとしても、活動してください。

元氣な大使たちから発信されるひととはくの魅力が一人でも多くの方に届き、全国のより多くの子どもたちが、博物館に親しみ、「本物」の自然科学に触れ、自然や環境を正しく学ぶ機会につながることを期待しています。



みんなの福島展&Kidsキャラバンin東北



メッセージボードには福島に対する数多くの暖かいメッセージが寄せられました（みんなの福島展）



顕微鏡でひつこき虫を観察（福島県立博物館）



化石のレプリカづくり（ニコニコこども館）

東日本大震災被災地支援のための3回目の Kids キャラバンとして、4月22日と23日に福島県を訪問しました。東日本大震災に関連するひととはくの福島県関係の取り組みとしては、3月3日～4月8日に開催した「みんなの福島展」に次ぐものです。4月22日は福島県立博物館を訪問しました。福島県立博物館は、会津若松市の旧会津藩の鶴ヶ城近くに立地する総合博物館です。当日のプログラムは、ひととはくフロアスタッフ手作りのデジタル紙芝居「アンモナイト物語」の上演からはじまりました。次にお湯で柔らかくなる樹脂を使った化石のレプリカづくりなど。植物は三田で採

集したものに加えて福島県立博物館の周辺で採集した材料も使用して、葉っぱの表面に並ぶ「小さなお星さま」のような星状毛を見たり、ひつこき虫のメカニズムを探ったりしました。一通りのプログラムが終わった後は、自分で調べたいものを拡大してスクリーンに写したり、ルーペで観察したり、楽しい時間を過ごしていただきました。23日は郡山市にある未就学児を対象としたニコニコこども館を訪問しました。こちらでは、明石市立天文科学館の井上さんと一緒に活動しました。井上さんは5月21日の金環日食に向けて、そのPRと観察メガネの作製です。懐中電灯を使って、金環日食の原理をわかりやすく説

明しておられました。ひととはくチームは化石のレプリカづくりをしたり、化石にさわったりしてもらいました。子どもたちにとって、初めての体験だったことと思います。今回のキャラバンにご参加いただいたお客様、お世話になった福島県立博物館、ニコニコこども館のみなさん、ありがとうございました。

古谷 裕（キッズひととはく推進室）

新転任紹介



次長 田中千雄

はじめまして、人と自然の博物館次長の田中です。どうぞよろしくお願いいたします。20周年を迎える平成24年度、20年の「ありがとう」をこめ、多彩なプログラムを実施します。ぜひひととはくにお越しください。



情報管理課 指導主事 阪上勝彦

兵庫県立農業高等学校から異動してきました。ひととはくでは、子どもから大人まで参加できる様々なセミナーやイベントが日々開催されています。今年20周年を迎えるひととはくに、お気軽にご来館ください。



総務課 事務職員 鈴木智仁

経験者採用で本年度より新任の鈴木智仁です。前職は工業用化学薬剤の営業マンでした。これまでの経験を新しい職場で、人と自然の関わりに役立てていけたらと思います。よろしくお願いたします。

ひととはくジオキャラバン 2012年も始まりました!

山陰海岸ジオパークを盛り上げていこうと、昨年からはじまったひととはくジオキャラバン。展示やセミナー・イベントをセットにして、今年も京都府京丹後市にある道の駅てんぎてんき丹後(2012年4月19日～6月19日)を皮切りに、道の駅神鍋高原(兵庫県豊岡市:2012年7月23日～8月31日)、鳥取砂丘ジオパークセンター(鳥取県鳥取市:2013年3月2日～4月14日)の3会場で実施します。

てんぎてんき丹後でのジオキャラバンは、山陰海岸ジオパークを特徴付ける植物のご紹介ということで、植物画とパネル展示を行いました。山陰海岸ジオパークは、対馬暖流の影響を受ける温暖な海岸部から標高1500メートルの冷涼な山地まで、地形の複雑さとあいまって多様な環境が存在し、豊かな植物相が成立しています。またジオパークエリア周辺に分布が限られ、但馬や丹後、山陰という名前のつく(例えばタジマタムラソウやタンゴイワガサ(=ミツバイワガサ)、サンインギクやサンインシロカネソウ等)植物も多くあります。本物をお見せできれば最高なのですが、長期にわたって生きた植物の展示するのは難しいので、写真を使ったパネルと植物画を用いて展示を行いました(写真1)。代わりと言ってはなんです、本物の植物をお見せする機会として、4月28日、29

日にひととはく黒田研究員による京丹後市網野町の植物観察会のセミナー(28日:琴引浜、29日:高天山)を、地元からの参加者も得て実施しました(写真2、3)。

おかげさまで、期間中のビジター数は21,348人となりました。まもなく始まるジオキャラバンin道の駅神鍋高原では、ツキノワグマ他哺乳類や鳥類の剥製、貝化石、子ども達に大人気の昆虫標本などを展示する予定です。7月23日(月)にはアンモナイト化石のレプリカ作りや木工教室も実施します。8月5日(日)は噴火口から花火を打ち上げる神鍋火山祭りもあります。是非遊びに来てください。 高野温子(地域展開推進室)



写真2: 琴引浜の植物観察セミナーの様子



写真1: ジオキャラバンの展示



写真3: 高天山のセミナー風景

シリーズ 身近な生物多様性

シンポジウム

「山陰海岸ジオパークの生物地理」が開催されました

本シンポジウムはひととはく20周年記念事業として、5月19日(土)午後山陰海岸ジオパーク館(新温泉町)で、兵庫県生物学会との共催で行われました。多くの方々・組織の協力・後援をいただき、47名もの参加がありました。

京都府・兵庫県・鳥取県の山陰海岸ジオパークは地形地質だけでなく、生物分布の上でも興味深い地域です。近年は遺伝子解析のデータも発表されています。「山陰海岸ジオパークを生物分布の点から見るとどんな特徴があるのか?」が今回の目的でした。当館岩槻邦男館長の挨拶に始まり、福原修一郎氏(兵庫県生物学会)から、山陰海岸ジオパークで注目すべき生物群の話に続いて、ザトウムシ類(鳥取大学 鶴崎展巨氏)、フキバッタ(鳥取県立博物館 川上靖氏)、カタツムリ(日本貝類学会 大原健司氏)、両生類・爬虫類(ひととはく 太田英利)、タンポポ(ひととはく 鈴木武)と、同じ学会ではなかなかそろそろことのない内容を知ることができました。

総合討論を行う時間がなかったのですが、山陰海岸ジオパークの周辺も含めて、いくつかのパターンがありそうでした。①由良川(京都)～加古川(兵庫)、岸田川(兵庫)、千代川(鳥取)～旭川(岡山)など大きな河川が境界になる:ザトウムシなど移動能力が低い生物では広い川は越えられないと考えられる。②山陰に広く分布する種が四国山地西部にも共通に分布する:最終氷期(約2

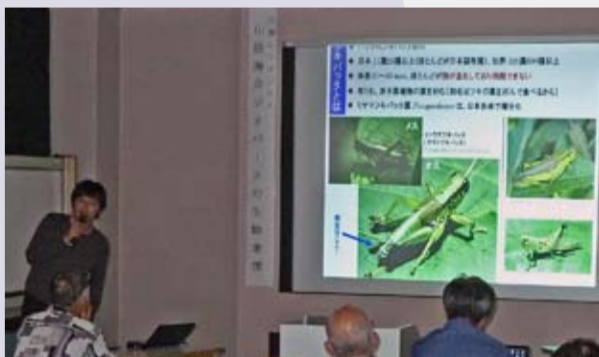
万年前)のころに瀬戸内海が陸地になっており、カタツムリなどは陸づたいに分布を広げて、そのあとに分断されたと考えられる。③京都～兵庫の丹波地域から丹後半島にかけては複雑な分布になっている:最終氷期に若狭湾周辺は比較的温暖で、種内多様性を保持して生き残っていたのではないかと考えられる。

山陰海岸ジオパークは生物地理でも興味深いことばかりでしたが、山陰の多雪気候、最終氷期の地形、今回発表のあった生き物以外の情報も含めて、更に議論を深めていく必要を感じました。

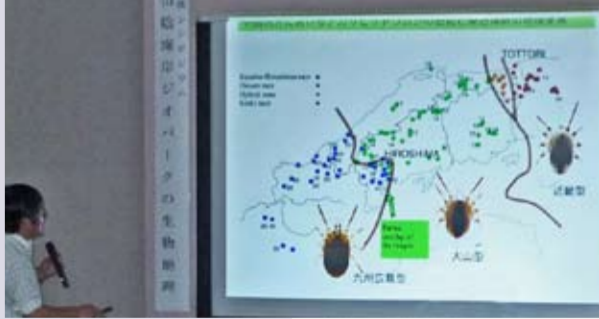
鈴木武(生涯学習推進室)



山陰海岸ジオパーク館の会場の様子



フキバッタの特徴の説明(川上靖氏)



アカサビザトウムシの地理変異の説明(鶴崎展巨氏)



サンインマイマイ(中)は京阪神に多くクベニマイマイ(右)よりも殻が高いのが特徴で、鳥取県西部から山口県に分布する。四国西部にはサンインマイマイと同種とされるヤマガマイマイ(左)が生育する。